

猛暑に備え家畜用衣料「ウシブル®」を着用

乳牛は暑さに弱く、気温が24℃を超えると食欲が落ちて乳量が減り、熱中症で死亡することもあります。

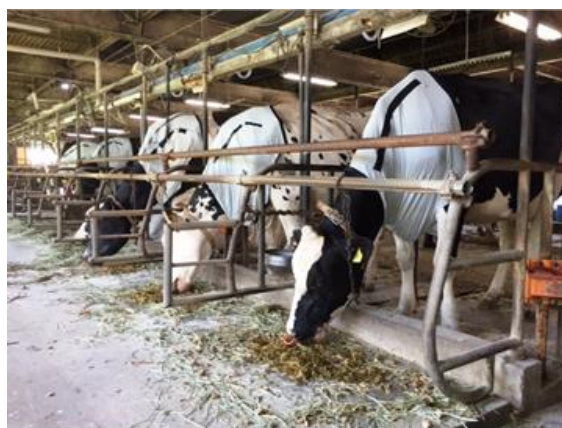
当センターでは5月から暑熱対策として搾乳牛の毛刈りや、大型扇風機による送風を行うとともに、屋根上散水の点検、牛舎への直射日光を遮るためのゴーヤによるグリーンカーテンづくりなどを行っています。

さらに、これらの対策に加え、搾乳牛にとって体が消耗するため大切な時期である分娩後や泌乳最盛期の牛を中心に、グンゼ株式会社と共同開発した暑熱対策用の家畜用衣料「ウシブル®※」を着用させて、今年の夏の猛暑に備えています。

今年6月には「ウシブル®」がグンゼ株式会社から販売されますので、当セン

ターでは夏期の乳量減少と家畜の損耗防止に向けて普及を進めます。

※ウシブル®：グンゼ独自の冷感素材ラディクール®に加水装置をつけた家畜用衣料。冷感素材に水が自動で適量給水され、気化熱により体表面温度を低下させる。



「ウシブル®」着用中の搾乳牛

畜産センター

養鶏場に侵入するネズミの行動調査を再開

当センターでは、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）発生リスク低減技術を開発するため府内の大型養鶏場を対象に、HPAI ウイルスを媒介するといわれるネズミについて、鶏舎に侵入する行動をセンサカメラを用いて調査しています。

センサカメラの撮影動画より得られたネズミの行動パターンを解析し、ネズミが鶏舎に侵入する際の経路になりうる構造や材質等を解明しています。その情報は家畜保健衛生所にも伝達し、今年の冬のHPAIのシーズンに向け、農場でのネ

ズミ防除対策指導に役立てていきます。



開口部周囲へのセンサカメラ設置作業

畜産センター

高濃度アンモニア臭気対策の指導を実施中

畜産農家からの家畜の排泄物は、堆肥化し有機肥料として田畑の土づくりに活用されていますが、堆肥化する際、アンモニアガス等が発生し悪臭の原因になります。そこで、当センターでは、臭気対策として開発した微生物脱臭装置の普及を進めています。

しかし、牛や豚など家畜の種類や堆肥化処理方法（密閉縦型堆肥化装置※等による堆肥化）によっては、高濃度のアンモニアガスが発生し、付設の微生物脱臭装置の能力を低下させる事例があります。脱臭槽の臭気を測定し、能力が低下している場合は、アンモニアを分解する微生物を再投入するなど指導を行っています。

併せて、高濃度アンモニアガスの効率

的除去方法の確立を進めていきます。

※密閉縦型堆肥化装置：密閉された発酵槽で温風を通気して家畜排泄物の発酵・乾燥を促進する装置



堆肥化時のアンモニアガス発生量を推定するための分析

畜産センター

暑さに備えてヒツジの衣替え

碓高原牧場のヒツジの毛刈りは、毎年初夏の風物詩として今年もテレビや新聞などマスコミに取り上げられました。また、地元の保育園児を招待し、園児達が見守る中、3頭のヒツジの衣替えを実演しました。

刈り取った羊毛は、地元の愛好家の手によって、サマーセーターなどに仕立てられて有効に利用されます。



園児達が見守る中毛刈り開始

畜産センター碓高原牧場

繁殖雌牛預託事業の開始

碓高原牧場では、平成 28 年度から農家が飼養する長期不受胎牛※を預かり、受胎させた後、農家に返却する「繁殖雌牛預託事業」を実施しています。

昨年度は 14 戸から 22 頭の長期不受胎牛を預かり、広い放牧場での適度な運動と休養に加え、集中的な繁殖診療措置などを行った結果、16 頭の受胎に成功するなど、農家から大変好評でした。

今年度も 5 月 18 日から順次導入を開始しました。11 月末の受託期間終了まで随時導入をおこない、農家からの期待に

えていきます。



放牧場でリラックスする預託牛

畜産センター碓高原牧場